

2010 ワールドカップ 南アフリカ大会のゲーム分析
ーボール奪取からゴールまでの過程についてー
The game analysis of 2010 FIFA World Cup South Africa
-About the process from take a ball to the goal-

1K08B227-7

山中真

指導教員 主査 堀野博幸 先生

副査 石井昌幸 先生

【目的】

本研究では、2010 ワールドカップ南アフリカ大会において生まれたゴールから、どのようにして守備側ゴール前で組織される守備戦術を相手に攻撃側が得点しているかを分析する。その中でも、ボール奪取とボールロストによって攻守が入れ替わったとき、ボールを失ったチームはこの時点ではまだ守備態勢が整っておらず、守備戦術も組織されていない。この状態のときに、ボール奪取をしたチームがどのようにボールをゴールまで運び得点しているのかという観点から、ボール奪取からゴールにまで至ったプレーに限定し分析する。また、2006 年ワールドカップドイツ大会でのボール奪取からゴールにまで至ったシーンの検証も同じ項目で行い、2 つの大会ではどのような差があるのか、攻撃の形はどのように変化しているのかを調べたい。

【方法】

1. 研究対象

2010 年ワールドカップ南アフリカ大会の全 64 試合で生まれた 145 ゴールの中で、ボール奪取からゴールにまで至ったゴール (77 ゴール) を対象とする。また、2006 年ワールドカップドイツ大会の全 64 試合で生まれた 147 ゴールのうち、ボール奪取からゴールにまで至った 72 ゴールも比較するために研究対象とした。

2. 分析手順

日本国内で TV 放送された 2006 年ワールドカップドイツ大会と 2010 ワールドカップ南アフリカ大会の試合の VTR を利用し、ボール奪取からゴールに至るまでの過程の各項目を分析した。

3. 分析項目

ボール奪取からゴールに至るまでの過程に関わる要素として、6 項目を設定した。

【結果】

(1) ボール奪取地域

ボール奪取地域とゴール数について特別な関係性はみられなかった。

(2) ボール奪取時のパワーの方向とゴール数

前向きでボールを奪いゴールにまで至ったプレーが 62 ゴール、後ろ向きが 15 ゴールと大きな差がでた。

(3) ボール奪取直後のプレーとゴール数

GO (3 秒以内にゴールに向かう攻撃の意図のある

パス、ドリブル) が 60 ゴール、STAY (3 秒以内に GO がないプレー) が 17 ゴールで大きな差が出た。

(4) ボール奪取からゴールまでに要した時間

ボール奪取から 6~10 秒の間に決めたゴール数が 20 ゴールで一番多かった。11 秒以降のゴール数はボール奪

取からの時間が長くなるにつれて減少傾向にある。

(5) ボール奪取からゴールまでに要したパス本数
一番多かったのは 1 本の 14 ゴールである。ボール奪取からのパス本数が増えるに連れて、ゴール数も減少傾向にある。

(6) ゴールを決めた選手のボールタッチ数

ボール奪取からゴールにまで至った攻撃の、ゴールを決めた選手のボールタッチ数で一番多かったのは 1 タッチの 43 ゴールである。

【考察】

先行研究で証明された通り、ボール奪取地域とゴール数に関係性はなかった。ゴールを奪うためには相手ゴールにより近いエリアでボールを奪えば良い、という考えは説得力に欠けるということが分かった。

研究項目の中で最も特徴的だったのがボール奪取時のパワーの方向とボール奪取直後のプレーである。ボール奪取時のパワーの方向は、前が 62 ゴール、後ろが 15 ゴールと大きな差があり、ボール奪取直後のプレーにおいても、GO が 60 ゴール、STAY が 17 ゴールと 2 つの項目とも大きな差が出た。前向きでボールを奪うこと、ボール奪取直後に GO すること、この 2 つに共通して言えることがゴールに向かっていることである。ボールを前向きで奪うということは、奪った段階ですでにゴールに向いた状態であるということになり、ボール奪取直後に GO するということは奪ってすぐにゴールに向かっているということになる。ゴールを奪うためにはボールを奪ってからすぐにゴールに迫っていくことが重要であり、そのためにもボールを前向きの状態で奪うことが必要なのである。

【結論】

本研究から、ボール奪取からゴールを目指す攻撃において特に重要なことは、前向きでボールを奪うこと、ボールを奪ってからすぐにゴールに迫っていくことだと分かった。